

まほるば



病院の理念

生命と人権を尊重し、良質かつ適切な医療を行います

第97号

2009年8月発行

【平成22年度看護職員採用説明会】

独立行政法人国立病院機構北海道東北ブロックの平成22年度看護職員採用説明会が、6月27日（土）13時から、仙台市情報産業プラザにおいて行われました。説明会は、処遇や看護職の教育・研修について、認定看護師の活動についてなどの全体説明の後、各ブースで病院の紹介です。

北海道東北ブロック・関東信越ブロック合わせて45施設が参加した各ブースは、パネルの掲示や旗を立てたり、サクランボなどの名産やグッズを置いたりそれぞれ工夫を凝らして、一人でも多くきてほしいと熱意にあふれるアピールをして



いました。

当院のブースも、理念や新病棟の完成予想図などを掲げ、冷たいリンゴジュースを用意して準備万端。当院附属看護学校の看護学生をはじめ、青森県出身者や附属看護学校卒業後進学をした学生にきていただきました。

みなさんは、教育プログラムや研修の様子を紹介したスライド、先輩看護師の話に耳を傾け、「来年の採用予定数は?」「プリセプターの関わりは?」と真剣に確認をしていました。

来年の4月に再会することを願いつつ、説明会は終了となりました。 教育担当看護師長 福士 英子



【躍動!! 華麗!! — 第10回よさこい津軽 —】



去る6月28日（日）、梅雨とは思えないような好天の下、「第10回よさこい津軽」が開催されました。

当日は、今年もまた真夏を思わせるような暑さでしたが、演舞披露の参加チームの熱気は、それを遙かに凌いでいるように感じました。

今年は、昨年よりも2チーム多い33チーム、総勢1,000人が参加し、津軽や県内各地は勿論のこと、遠くは北海道枝幸町や福島県郡山市からの参加もありました。

すっかり弘前の初夏のイベントとして定着した「よ

さこい津軽」は、回を重ねる毎に演舞を楽しみに集まる見物客が増え、会場の土手町沿道は大変な賑わいでした。

優劣を競うことなく、自由に、そして独創的に、様々な年齢の様々な人々が、「よさこい」を通じて一つになり、その演舞を楽しむことによって観客もまた一つになれる。それが「よさこい津軽」です。

来年もまた、観客の一人としてではありますが、是非「よさこい津軽」に参加したいと思いました。

入院係 工藤 真叔

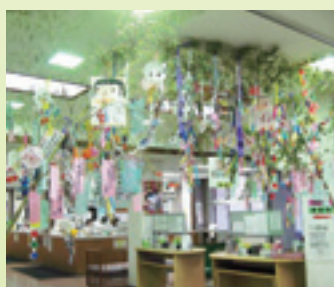


～「七夕飾り」～



☆七夕伝説を知っていますか? ☆

働きものの織姫星と夏彦星は、めでたく夫婦となったものの夫婦生活が楽しく、織姫は機を織らなくなり、夏彦は牛を追わなくなってしまいました。このため織姫星の父である天帝が怒り、二人を[天の川]を隔てて引き離し、年に1度の7月7日だけ会うことを許した、という内容です。そして、年に1回しか逢えないのに雨が降ると天の川の水かさが増し逢うことができないの



です。

この日に降る雨は催涙雨と呼ばれ、織姫と夏彦が流す涙といわれています。

今年も素敵な七夕がやってきました。外来ホールに、風の子保育園の子供たちが作ったかわいい飾りと願いごとの入った短冊をちりばめた七夕飾りを設置しました。

また、外来ホールに患者様用の短冊を用意し、子どもから大人まで多くの方々の願いが込められた短冊を飾ることができました。

織姫星と夏彦星は1年に1度だけですが、弘前病院の七夕に寄せられた願いは1度だけでなく、ずっと叶い続けてほしいと思います。 庶務班長 豊田 篤

市民講座『前立腺がん検診は必要ですか？』

6月24日の市民講座で「前立腺がん検診は必要ですか？」と題して前立腺がんの診断に重点を当てたお話をさせていただきました。前立腺がんは欧米諸国で近年増加傾向が著しく、日本も同様の傾向にあります。以前は前立腺がんを早期に発見することは難しく、多くの場合局所の進行や骨転移を伴っておりました。早期に前立腺がんを発見する研究が続けられた結果、前立腺がんになると血液中の前立腺特異抗原（PSA）値が高くなりやすいことが判明し、日本では1990年台から検診に利用されるようになりました。

これにより前立腺がんの発見数は急激に増加し、また診断方法や治療法も格段の進歩を遂げたこともあ



り、前立腺がんの治療成績は向上しています。しかしPSAを利用した検診の有効性に対しては否定的な意見も少なからず認められ、その問題点を解説しました。ただ我々が住む青森県は総じてがんの死亡率が高い地域であることが以前から指摘されており、当科での前立腺がん発見率が全国平均を大きく上回っている現状を考えると、現段階ではPSAを利用した検診を普及させ、前立腺がんが進行する前に発見し治療することが必要であると思います。

泌尿器科医長 大和 隆

「消防訓練」

「地震・雷・火事・親父」昔から怖いものの代表として言い伝えられているが、ふと気づいたことがある。火事以外の三つも全て火事に通じるのだ。地震、雷はもちろん火事の要因になるが親父だって、例えば仕事でやなことがあった帰宅途中、気晴らしに一杯やって、いい加減酔っぱらって帰宅し、たばこを消さずにソファに寝たら…小腹が空いて急に「カップ麺」が食べたくなって、やかんにお湯を沸かしたままソファに寝たら…（別にソファじゃなくてもいいんだけど）火事になる。つまり確率的にいうとやっぱり火事がもっとも怖いのかも知れない。



今年も例年どおり消防訓練を7月2日行った。西3病棟の13号室を火災想定場所とし模擬患者として血色のいい元気いっぱいの看護学校の2年生38名が協力してくれた。毎年訓練しているから職員は相変わらずテキパキと、模擬患者はあえて調子悪そうに一連の行動を特に大きな問題もなく終えたが、最後の講評で院長より「来年は7階建ての新病棟となる。訓練と違い実際には担送患者は多く、ましてやエレベーターを使えないとなると災害時に患者様を安全に避難させるには訓練はますます重要になる」と気を引き締めるひと言があり消防訓練を終えた。

庶務係長 高橋 卓雄



「人工呼吸勉強会の開催」

7月7日、8日、9日の3日間、人工呼吸に関する勉強会を開催しました。これは全職員対象の医療安全を目的とした医療安全研修会の一環で行われたものです。

1日目は呼吸生理と呼吸管理における看護について、2日目は人工呼吸器の適応・目的、各呼吸モードの特徴と注意点、加温加湿について、3日目は実際に人工呼吸器を使用して、人工呼吸器の取扱手順、呼吸回路の構成と機能、人工呼吸器のよく経験するトラブルについて、タイコヘルスケアジャパン



のスタッフの方に講演していただきました。

3日間での参加人数は延べ103名で、中でも1日目は44名と多数の参加で、今後の看護に役立つ勉強会になったと思います。

昨今、人工呼吸関連の医療事故が報道される中、当院においてはそのような事故は起きておらず、当院スタッフの日々の観察力・チームワークの賜物といっても過言ではないでしょう。

今回の勉強会が、「良質で安全な医療の提供」の一部になれたら幸いです。臨床工学技士 谷川原 勝史

「BFH報告」 母子同室 ～生まれたときからずっと一緒～

ユニセフ/WHOでは、「母乳育児成功のための10か条」で出産直後からの頻回哺乳を推進しています。「母乳で赤ちゃんを育てたい」お母さん達の希望を叶えるためには、早期からの母子同室が必要でした。

それまで母子医療センターでは、お母さんの休息と赤ちゃんの観察のため出産後24時間は「新生児室」にお預かりし、その後母子同室になるのが一般的でした。そこで、平成11年より母子同室に移る時期を早め、平成14年からはお母さんの状態にあわせて出産直後からの母子同室を開始しました。

出産後すぐからの母子同室を実践するまでは、新生児室にいる赤ちゃんはよく泣いていました。最近では、お母さんとずっと一緒に過ごしているためか、「病棟に入ると赤ちゃんの泣き声が聞こえる」という状況は少ない

印象です。

出産後、赤ちゃんは泣きますが、添い寝をすると落ち着いてよく眠ります。この時にお母さんも赤ちゃんと一緒に休めます。いつでも欲しい時におっぱいがすえることもよい安心感をもたらしている、と感じます。

「やっと会えたね」「元気で良かった」「生まれてくれてありがとう」そんなお母さんや家族の思いに、「お母さんの匂い大好き」「そばにいないと心配になって泣きたくなるよ」と赤ちゃんが応えているようです。

はじめて抱っこしたときの赤ちゃんの温かさ・小ささ、いとおしさを忘れず、健やかに育ってくれるよう応援していきます。母子医療センター副看護師長 西塚 弥生



外来診療一覽

◆外来医師診療一覽表 (2009年8月1日現在)

診療科	区分	月	火	水	木	金
総合診療外来		-	-	大串和久	-	-
循環器内科		人見博康	人見博康	人見博康	人見博康	人見博康
呼吸器科		山本勝丸	中川英之	中川英之	山本勝丸	中川英之
消化器・血液内科		山口公平	週毎に交替で担当 ①吉谷/松木 ②松木/山口 ③山口/吉谷	山口公平	山口公平	-
		吉谷元		松木明彦	吉谷元	松木明彦
		佐藤年信		佐藤年信	-	佐藤年信
小児科		野村由美子	野村由美子	杉本和彦	野村由美子	野村由美子
		杉本和彦	佐藤工	八木弘子	佐藤工	杉本和彦
外科		田澤俊幸	高橋克郎	横山昌樹	横山昌樹	三上勝也
		三上勝也	三上勝也	田澤俊幸	高橋克郎	横山昌樹
整形外科	午前	柿崎寛	柿崎寛	秋元博之	秋元博之 又は 鈴木雅博	柿崎寛
		鈴木雅博	能見修也	鈴木雅博		木村由佳
	午後	-	-	-	-	柿崎寛
脳神経外科		-	-	木村正英	-	-
皮膚科	午前	熊野高行	佐藤正憲	佐藤正憲	熊野高行	熊野高行
	午後	● 予約	● 手術	● 予約	● 手術	● 予約
泌尿器科		大和隆	大和隆	大和隆	大和隆	大和隆
産婦人科		真鍋麻美	片桐清一	真鍋麻美	● 妊婦検診 (一般外来休診)	片桐清一
		田中加奈子	小笠原智香	小笠原智香		田中加奈子
眼科		蒔苗順義	蒔苗順義	蒔苗順義	蒔苗順義	蒔苗順義
耳鼻咽喉科		黒田令子	黒田令子	● 手術 (一般外来休診)	黒田令子	黒田令子
		二井一則	二井一則		-	二井一則
放射線科	診断	佐々木幸雄	佐々木幸雄	佐々木幸雄	佐々木幸雄	佐々木幸雄
	治療	-	-	川口英夫 (午後)	-	-
麻酔科		● 手術	● 手術	● 手術	工藤明	● 手術
女性専用外科		杉本菜穂子 (※予約制/第1・第3火曜日午後診療)				
セカンドオピニオン		-	-	-	今充	-

※ 学会、出張などにより担当医師が変わる場合があります。

【シリーズ】臨床検査のABC 細菌検査シリーズ⑤ 抗酸菌検査

今回は抗酸菌検査についてお話しします。

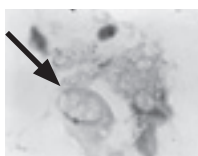
●抗酸菌検査(結核菌・非結核菌群など)には以下の様な検査法があります。

- ①塗抹検査(チールネルゼン染色、蛍光法)
- ②培養検査: 固形培地法(小川培地法)液体培養法(MIGIT法)
- ③同定検査
- ④感受性試験
- ⑤遺伝子検査(PCR法等)の検査があります。

当院ではこのうち塗抹検査(チールネルゼン染色)を緊急検査として実施しております。但し、培養検査・同定検査・遺伝子検査についてはバイオハザード上、結核菌を取り扱う安全キャビネット及び専用測定機器が必要なため、現在は外部機関に委託しております。

1回目は①の塗抹検査についてお話しします。

検査手順 ①患者さんから提出された検体(喀痰など)



をスライドグラスに広げ火焰固定してチールネルゼン染色(時間は約20分要す)をします。染色後顕微鏡で観察し抗酸菌が存在すると以下に示した写真の様な細長い桿菌(矢印先実際は赤色に見える)として確認できます。私たち検査

技師はこの赤い菌がないかを検索しています。実際に検査依頼が出て結果報告まで約40分要します。②検査結果報告様式(当院ではガフキー号数を使用)例)抗酸菌塗抹検査結果陽性の場合: 陽性(ガフキー号数: 1~10号) 抗酸菌塗抹検査結果陰性の場合: 陰性
注: 抗酸菌陽性は結核菌陽性を示すものではなくあくまでも抗酸菌が塗抹検査で確認された意味です。ご注意ください。

今回は培養検査を予定しています!!

研究検査科 臨床検査技師長 高橋俊英

「レジナビフェア2009 東京ビックサイト」

医学生のための初期研修合同セミナー（レジナビフェア2009）が7月19日（日）東京ビックサイトで行われました。

国内最大級の合同セミナーには、北海道から沖縄までの各地域から、600あまりの病院が出展しました。

当院は指導医の片桐産婦人科医長、研修医の渡邊先生が研修内容、病院の魅力を熱く参加者に説明しアピールしました。

弘前病院ブースには10大学から17人の医学生が



来場されました。ほとんどの学生が当院の名前も場所も知らない方でしたが、研修プログラムや診療科について積極的に質問されていました。

今回当院の説明を受けた医学生の多くは5年生で来年から当院で研修することは難しいかもしれませんが、少しは国立弘前病院を認知し印象に残っていただけたと思います。

当院を研修病院として選んでもらうために、今後も臨床研修プログラムの充実を図り、医学生に対する認知度を高めるよう活動を続けます。

管理課長 大類 靖

【ふるさと紹介】宮城県仙台市

私のふるすとは宮城県仙台市は錦が丘というところ。愛子（あやし）駅という名を聞いたことがないでしょうか？。愛子様誕生の時に名前が一緒ということで一時話題になりましたがそこが最寄駅です。歩いて30分かかりますが。

私がここに住み始めたのは小5の頃、元々の生まれは大阪なのですが父の仕事の関係で横浜に引越し、その後、川崎に引越したところ持病の喘息が重篤化、田舎の空気を吸ったほうが良いという事で引越してきたのです。私が住み始めた頃は、丁度一帯の再開発が始まった頃で本当に田舎でした。

見渡す限り田んぼに畑、学校まではあぜ道を30分、道中は蛙と蛇が乱舞する。近くに狸がよく出て餌付けしようとしたこともあります。鹿も見ました。

熊はさすがに見ませんでした。目撃例があったのでどうもいたようです。私が大学に入学して以降は開発が大きく進み、レンタルビデオ店や大型電気店ができ、代わりに田んぼはかなり減少、川も水量を減らし、動物たちも姿を現さなくなったそうです。でもまだ狸は時折姿を見せ、蛙や蛇も残った田んぼで乱舞しています。

そんな感じに都市と自然が入り混じっているのが私のふるさとです。

開発は今後も進むでしょうが個人的には自然のペースも確保してほしいなと考えたりします。

臨床研修医 渡邊 清誉



病院訪問「機構本部山口監事」

6月18日（木）国立病院機構本部山口監事が監事監査室桑原主査を伴い、当院を視察されました。

山口監事は13時15分病院に到着、概況説明、院内巡視そし幹部との意見交換を行いました。

各部署の巡視の際は職場長に熱心に質問されてお

りました。また、病院幹部職員との意見交換では、当院の諸問題、将来展望などについて活発にディスカッションを交わされ、16時5分発の特急津軽で弘前を後にされました。

管理課長 大類 靖



【今月の川柳】

★【川柳募集】 あなたの川柳をお待ちしています。

クスリより 点滴よりきく 笑顔かな

（タカ）

掲載した作品は、広報誌編集委員会で選出したものです。

お知らせ

◆ 苦情・相談窓口

患者様やお見舞いの方などからの苦情・相談については、『患者相談室』のMSW（メディカルソーシャルワーカー）や、院内6か所に設置している『ご意見箱』で対応しています。

なお、皆様にお知らせした方が良い内容のものは、外来掲示板に掲示しています。

発行元 **独立行政法人国立病院機構弘前病院**
Hirosaki National Hospital
責任者 臨床研究部長 泉井 亮

〒036-8545 弘前市大字富野町1番地
TEL0172-32-4311 FAX0172-33-8614
ホームページ <http://www.hosp.go.jp/hirosaki/>